

14 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) にて単純血漿交換療法を施行した一例

飯田市立病院

内科¹⁾ 臨床工学技士²⁾

白旗久美子¹⁾ 前沢千種¹⁾ 牧内 努²⁾ 辻 元治²⁾ 帯川直純²⁾

田口真吾²⁾ 小木曾麻衣²⁾ 岩崎 瞬²⁾ 武林隆史²⁾

1、はじめに

血栓性血小板減少性紫斑病 (以下 TTP) は 1924 年米国の Eli Moschowitz によって報告された溶血性貧血、破壊性血小板減少、細血管内血小板血栓、発熱、動揺性精神神経障害の 5 徴候を有する全身性重篤疾患であります。今回難治性 TTP に対し単純血漿交換療法とステロイドパルス療法を併用し TTP の寛解を目指したので、その経験を報告させていただきます。

2、症例

患者: 69 歳・女性

主訴: 貧血

今年 2 月に高血圧、高脂血症と診断され薬を飲みだしてから自転車に乗ってもフラフラしてしまうとの訴えがあった。6 月に自転車で転倒し前頭部、右前腕、両膝を打撲。また、食事中に持っているものを落としてしまう症状も発現しました。そして外出からの帰宅時、先に家に入ったご主人が後から付いてこないのに気がつき、外へ見に行くと倒れているのを発見した。呼びかけても返答無い為救急車を要請し、当院に搬送された。

3、検査所見

ビリルビン 4.0mg/dl、LDH 932IU/L、と高値を示し、さらに赤血球 176万/ μ l、HGB 5.7 g/dl、ヘマトクリット 17.2%、プレート 0.5万/ μ l、という著大な貧血と血小板減少を認めました。

4、治療経過

入院時検査結果所見より PLT が 5000 と著大な低下が見られました。入院 2 日後に TTP の疑いがあるということで、3 日間の連日単純血漿交換療法を開始しました。この時、血小

板輸血は併用しておりませんが、血漿処理量 4.0L で約 2 時間半の連日単純血漿交換療法を行い PLT の上昇がみられました。

PLT の上昇を認めた為、隔日単純血漿交換に切り替えて様子を見ました。しかし、数日後 PLT が 83000 から 5000 へ低下し、再び連日単純血漿交換を行うこととしました。5 日間の連日単純血漿交換を行うが PLT の上昇は見られませんでした。

PLT の上昇が見られないため内科医師よりリツキシマブ療法と血漿交換療法が平行して行われることとなりました。リツキサン投与 5 日目から PLT 上昇しはじめ 10 日後には正常範囲内となりました。血漿交換離脱期ではあったが難治性 TTP であったため、漸減的に血漿交換を行いました。リツキシマブ療法、ステロイドパルス療法も継続して行いました。

5、結果

単純血漿交換療法、リツキシマブ療法、ステロイドパルス療法の併用により約 1 ヶ月間で難治性 TTP は寛解しました。

6、結論

難治性 TTP に対してステロイドパルス療法、連日血漿交換療法、リツキシマブ療法の併用が有効でありました。

〒395-8502 飯田市八幡町 438 番地

飯田市立病院 腎センター